

損益計算書

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

(単位：千円)

売上高		1,055,013
賃貸不動産収入	553,684	
不動産仲介収入	6,861	
不動産管理収入	167,913	
業務管理収入	184,494	
不動産販売収入	142,061	
売上原価		752,313
賃貸不動産費用	328,682	
不動産仲介費用	12,126	
不動産管理費用	130,974	
業務管理費用	181,517	
不動産販売費用	99,014	
売上総利益		302,700
販売費及び一般管理費		88,976
営業利益		213,724
営業外収益		3,367
受取利息及び配当金	955	
雑収入	2,412	
営業外費用		7,699
雑支出	7,699	
経常利益		209,392
特別利益		0
特別損失		4,630
税引前当期純利益		204,762
法人税、住民税及び事業税	64,541	
法人税等調整額	40,569	105,110
当期純利益		99,652

1 重要な会計方針

(1) 資産の評価基準及び評価方法

①有価証券の評価基準及び評価方法

平成26年4月1日

- | | | |
|-------------|-------|-------------|
| ・ 満期保有目的の債券 | | 償却原価法(定額法) |
| ・ その他の有価証券 | | |
| 時価のある有価証券 | | 移動平均法による時価法 |
| 時価のない有価証券 | | 移動平均法による原価法 |

②たな卸資産の評価基準及び評価方法

- | | | |
|---------|-------|---|
| ・ 材料貯蔵品 | | 移動平均法による原価法
(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定) |
|---------|-------|---|

(2) 固定資産の減価償却の方法

- | | | |
|-------------------|-------|---|
| ①有形固定資産(リース資産を除く) | | 税法基準による定率法 |
| ②無形固定資産(リース資産を除く) | | 税法基準による定額法 |
| ③リース資産 | | 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法
なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。 |

(3) 引当金の計上基準

- | | | |
|------------|-------|---|
| ①貸倒引当金 | | 法人税の規定によるほか、特定の債権については、その回収可能性を考慮して計上している。 |
| ②退職給付引当金 | | 従業員の退職給付に備えるため、退職金規定に基づき自己都合退職による期末要支給額を計上している。 |
| ③役員退職慰労引当金 | | 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。 |
| ④修繕引当金 | | 建物の修繕及び大規模改修支出に備えるため、内規に基づく引当金を計上している。 |

(4) 収益及び費用の計上基準

- | | | |
|------|-------|-------------|
| ①売上高 | | 発生基準によっている。 |
|------|-------|-------------|

(5) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- | | | |
|------------|-------|------------------------------------|
| ①消費税等の会計処理 | | 消費税及び地方消費税に相当する額の会計処理は、税抜方式によっている。 |
|------------|-------|------------------------------------|

(6) 税効果会計

- | | | |
|--------|-------|---------------------------------------|
| ①税効果会計 | | 税効果会計を適用している。繰延税金資産の発生の主な原因は修繕引当金である。 |
|--------|-------|---------------------------------------|

2 株主資本等変動計算書関係

(1) 当該事業年度の末日における発行済株式の数

普通株式	4,000株
------	--------

(2) 当該事業年度中に行なった剰余金の配当に関する事項

当該事業年度は剰余金の配当を行っていない。

(3) 当該事業年度の末日後に行なう剰余金の配当に関する事項

当該事業年度後に剰余金の配当を行なう予定はない。